

大分とり天ラウンド開催報告

テーマ:「次期学習指導要領とこれからの体育、保健体育の授業のあり方について」

今年度も対面開催方式、Zoomでの参加を合わせたハイブリッド開催で、体育の学びを盛り上げる会となりました。様々な県、立場から多数の参加いただき、それぞれの立場から体育・保健体育のよりよい授業のあり方について意見交換をすることができ、参加者の皆さんにとって充実した内容となりました。ありがとうございました。

日 時 令和7年11月29日(土) 13:30~16:30

参加者 小学校関係 10人 中学校関係 10人 高校関係 0人 大学関係 11人



■ 情報提供 「全ての子どもに運動の楽しさや喜びを味わわせ自ら学ぶ力を育てる体育学習をめざして」について

大分県日出町立豊岡小学校 教諭 清家 和 氏

大分県小学校体育研究会研究協力校としての実践を情報提供された。中でも第6学年 ボール運動:ベースボール型の中で「Baseball5」の授業実践については、「学級全体が共通の目標に向かって学びを進めベースボール型のゲームの楽しさを十分に味わえるようにしたい」という願いのもと、様々な授業の工夫が紹介された。教具やルール、音源や学習カードの工夫で子供たちを意欲的にさせる環境作り、学習ポートフォリオや生成AI等のICT端末の有効的な活用を授業者が行っており、子供たちが楽しそうにベースボール型の運動に取り組む姿、課題解決のために熱心に見合い・教え合い、話し合う姿が紹介された。

また、大分県の公立学校で行われている「1校1実践」という体育的活動についても紹介された。「体力の木」「汗いっぱいタイムの実施」の取組を全校で共有し、ICT機器を活用し、やってみたくなる活動へと仕掛けていた。また、より効果的に行うために特別活動との関連を図り、充実させていた。

■ ワークショップ 楽しさの深掘りワークショップ～領域・種目の特性とは～

鹿屋体育大学 教授 梶 ちか子 氏

桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊 氏

最初に佐藤先生から次期学習指導要領の改訂の進捗を踏まえながら「Well-beingの実現に向けて」「各領域の中核的概念」等について説明がなされた。その後「器械運動系」等領域ごとに「解説書で示された「楽しさや特性」「楽しさを遠ざける要因」「この領域でこそ味わえる楽しさ」の『概念知』等についてグループワーク、発表・共有を行った。(一部紹介)

(1班) 中学校 第1・2学年 球技・ネット型

【楽しさの概念知】際きわのせめぎ合い、ラリーを継続する楽しさ、つなぐ楽しさ

【楽しさを遠ざける要因】ボールが痛い、つながらない、サーブが入らない、技能の差、声を出す勇気

(2班) 中学校 第1・2学年 武道

【楽しさの概念知】間合い・駆け引き・攻防の楽しさ、体の使い方、礼法・成り立ちからの新発見、非日常感、日本文化への興味関心、道着を着る本物感・特別感・やった感

【楽しさを遠ざける要因】痛い!怖い! (特に女子)、投げる方の技能指導が難しい、受け身で指導が終わってしまう
道着、防具が必要、安全管理、教師自身が楽しさの次元まで行っていない

(3班) 小学校 第5・6学年 器械運動系

【楽しさの概念知】より大きく・美しくを目指す、得意な技を組み合わせしていく・磨いていく面白さ(個別最適)
仲間と協働的に学べる楽しさ(友だちに褒められる)、達成感、個人の課題を解決できる

【楽しさを遠ざける要因】身体の成長によって出来ていたことが出来なくなっていく、他の人のけが。

(4班) 中学校 第1・2学年 球技・ベースボール型

【楽しさの概念知】作戦を練りやすい(見るスポーツ) → 360度のクリケットから派生した90度予測する楽しさ、間のスポーツ → わかると楽しい、間に合う・間に合わないが楽しい、打つ楽しさ、「3割」で一流
→ 失敗の多いスポーツ(できないも見逃せる)

【楽しさを遠ざける要因】技能→バット操作:当たらない、補球できない、チーム内の技能差がストレスになる子も
ルールが複雑、運動量が少ない

■ 総括、情報提供等

桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊 氏

これから10年先の授業づくりと中核的概念について、知識や技能について「なぜそれを学ぶのか」ということを十分に考え、子どもたちがチャレンジすることとおして、概念とつながるような先進的な授業づくりや研究を進めていくことの重要性について、まとめとして紹介された。